

2022年2月2日

報道関係各位

公益財団法人 笹川スポーツ財団

笹川スポーツ財団 スペシャルサイト『スポーツ 歴史の検証』
——国や地域の境界も、パラスポーツとスポーツの違いも超え、世界をつなぐ——

第106回 山下 泰裕 氏

(日本オリンピック委員会会長、2020年東京オリンピック・パラリンピック組織委員会副会長)

「スポーツ・フォー・エブリワン」を推進する笹川スポーツ財団(所在地:東京都港区赤坂 理事長:渡邊一利)では、日本のスポーツの歴史を築かれてきた方々のお話をもとにスポーツの価値や意義を検証し、あるべきスポーツの未来について考えるためのスペシャルサイト「スポーツ 歴史の検証」を掲載しています。

2021年度のテーマは「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」。昨夏に行われた2020年東京大会に尽力された関係者の方々に、それぞれの立場・視点で大会を振り返っていただきます。

今回登場するのは、山下泰裕氏。日本オリンピック委員会(JOC)会長と2020年東京大会組織委員会副会長を兼任し、オリンピック・パラリンピック一体開催などの革新的な試みを行ってきました。2020年東京大会開催の準備をはじめ、さまざまな活動を精力的に行う氏の心にいつもあったのは、「君にはスポーツを通して世界平和に貢献できる人間になってほしい」という、恩師の松前重義氏の言葉でした。

山下氏が先人たちから受け継いだものは、次世代の人々に引き継ぎたいことでもありました。本記事では、スポーツの素晴らしさを伝えるために走り続ける氏の声をお届けします。

「人間形成と社会貢献のツールとなるスポーツに」 山下 泰裕 氏

【公開日時】2022年2月2日(水)公開

【URL】https://www.ssf.or.jp/ssf_eyes/history/interview/106.html

スポーツ歴史の検証 で検索ください!



【主な内容】国民やアスリートの気持ちを表していた閉会式の“ARIGATO”/コロナ禍で浮彫となった「スポーツ成熟度」の低さ/若い世代が企画・提案した「JOC Vision 2064」の価値/身近で見てきたバツハ会長と森前会長の真の姿/共生社会実現に向けたスポーツとアスリートのあり方

《プロフィール》

山下 泰裕 (やました やすひろ) 氏

1957年生まれ。数々の柔道世界選手権で優勝し、1984年にはロサンゼルスオリンピック無差別級で優勝。その後は柔道の教育や推進に尽力し、2019年には国際オリンピック委員会理事、日本オリンピック委員会会長、2020年東京大会組織委員会副会長に就任し、大会運営の指揮を執った。

佐野 慎輔 (さの しんすけ) 氏 / インタビュアー

1954年生まれ。産経新聞客員論説委員、尚美学園大学スポーツマネジメント学部教授、笹川スポーツ財団理事/特別上席研究員。スポーツ記者を30年以上経験し、日本オリンピックアカデミー理事、野球殿堂競技者表彰委員を務める。

<スポーツ歴史の検証>概要

【企画制作】公益財団法人笹川スポーツ財団

【後援】スポーツ庁、東京都、公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会ほか

【特別協力】株式会社アシックス